

## 第73回 関東甲信越静学校保健大会報告

千葉県学校薬剤師会  
会長 畑中範子

今年度は、神奈川県が担当県で、第73回関東甲信越静学校保健大会はオンライン開催となった。

特別講演は、「心と体を育む食育」～今、そして10年先の健康のために～をテーマに、株式会社ABC Cooking Studio 管理栄養士 塚本万智氏で、まず、12の食育ピトグラムが紹介された。次に、文部科学省「平成31年度全国学力・学習状況調査」における小学生を対象とした研究の結果として、朝食を毎日食べる人は、そうでない人と比較して、国語と算数のデータ分析から学力が高いことが報告され、朝ごはんの大切さを知らされた。また、成長段階に応じた食事《栄養素》として、たんぱく質、カルシウム、DHA・EPA、鉄、亜鉛について、わかりやすい説明があった。

判別研究協議は5つの班に分かれ、2班【健康教育】では、東京都江戸川区立瑞江中学校 主任養護教諭 畠山 明日美氏より、「ジブンゴト」と捉え行動する生徒の育成を目指して～「保健委員会の生徒による発信」の取組～の発表があった。

薬物乱用防止教室は、1年生を対象に毎年度実施していたが、薬物乱用防止への意識の向上、生徒が「ジブンゴト」として捉え考えるようになることをねらいとして、保健委員会活動に薬物乱用防止活動を位置づけ、保健委員会の生徒から全校生徒に向けて発信する保健委員会活動を推進した。

成果としては、保健委員会の取組、特にグループワークの中で、自由に積極的に意見を出し合い、互いの考えを共有する中で、生徒自身の気づきや意識の向上を図ることができた。また、様々な誘い、誘惑への対処方法・断り方を考える中で、「ジブンゴト」として、捉え考え、行動する力を育成することができたと発表されていた。

5班【学校環境衛生と安全教育】では、群馬県甘楽町立甘楽中学校 教諭 吉原千奈美氏と養護教諭 金井博美氏より「コロナ禍における心身を健やかに保つための学校環境衛生活動の在り方～地域内のつながりを活かした感染症対策～」について発表があった。新型コロナウイルス感染が学校教育に影響を与え始めた休校期間の間、甘楽富岡地域の学校で、施設整備に合った対策を考えつつ、学校保健関係職員が近隣の学校等と連絡を取り合いより効果的な対策への調整を重ねていった。環境づくりをするにあたっては、文部科学省や群馬県教育委員会からの通知等をもとに、学校医や学校薬剤師に相談しながら進めていった。

集団生活という環境の中で、児童生徒や職員が感染への強い不安を持たずに生活できるようにするため、物的環境を整えることの重要性として、地区内の学校での取組例が紹介された。特に、換気に関しては、二酸化炭素濃度測定器を教室に設置し数値を確認することで、積極的な換気活動ができるようになったり、窓に換気を目安となる掲示を行っていたりと、感染予防に関するポスターや教材などの掲示も紹介された。

毎年8月に輪番制で開催されている大会だが、来年度は、コロナが終息し、対面での開催に期待したい。